

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯
 第115回放送の概要 (2016年11月26日放送)

パーソナリティ

たろう
 (佃 由晃)
 なか
 (中嶋邦弘)
 かりん
 (妹尾優香)
 あな
 (岸本幸恵)



ミキサー

門ちゃん
 (門田成延)

会計

小山俊則

相談役

わたかん
 (和田幹司)

**1. ゲストコーナー (1) カフェ経営 金田明子さん (77 陽会)、
 多目的レンタルスペースオーナー 合田三奈子さん**

金田さんは、高校時代の部活は走るのが好きだったので陸上部(中・長距離)で、試合では800mと3000mを走っていた。女子部員が少なかったので、練習は男子と同じで、ついていくのが精いっぱい迷子になったことがある。学校のグラウンドが非常に小さく、練習していると色々なボールが飛んでくるので危ない。一通り色々なボールに当たった。校外を走ることが多く、須磨の砂浜を走ったり、ポートアイランドの南公園まで走った。(金田さんのゼッケンは4698)



短大で栄養士の資格をとり、大阪ガスのクッキングスクールの講師をした。23歳の時に阪神大震災が発生し、料理教室どころではなくなり、電気には復旧が遅いので、社内が殺伐な空気の中で、事務処理、返金手続き、お客さんに連絡しても家が壊れたり、亡くなっている方もおり、黙々と業務を担当した。神戸での仕事が終わって姫路に転勤になり、講師の仕事をした。震災で自分の家、家族は大丈夫であったが、殺伐な空気の中で仕事をし続け、弱音を吐けず、自分の事だけで精一杯で、ボランティアも出来ず、もどかしさを感じていた。

東日本大震災発生時は、神戸からボランティアに行く人は、阪神大震災で助けてもらったからという気持ちで行く人が多い。金田さんは、2011年8月に岩手県陸前高田と大槌町に、ガレキ出しのボランティアに行った。子どもと遊ぼうというボランティアもあったが、人と触れあうことはしなかったため、単調作業の方が気持ちが楽と思った。誰かを助けたいという気持ちではなく、自分が助かりたい、自分を納得させるために作業を選んだ。

2年後、大船渡や石巻に友人の画家、カフェをしている人と一緒に、「岩手おぢゃこの時間」というおいしいコーヒーを入れて、気持ちに余裕を持ってもらう目的の、友人が立ち上げたイベントに参加した。そこでやっと人と触れあうことが出来た。コーヒーを入れたり、兵庫県の材料で作ったお菓子を提供した。地元の人と話をし、おばちゃんたちが凄く元気で、人は強いと思った。特に石巻のおばちゃんは元気で、関西人と乗りが似ていた。漁師町のせいか凄く厚かましく、クッキーもう一つ頂戴、IKEA で買った花模様のナプキンを部屋に貼るとか、隣のおばちゃんの分を持って帰るとか厚かましい、子供らしい感じがした。楽しい時間を持つことが出来、自分も元気になった。

カフェは2001年に元町通り4丁目にオープンし、16年目になる。元町商店街の一筋南になる。料理教室講師の後、幼稚園の頃からケーキ店をしたいと思っていたので、ケーキ店でケーキ製造の仕事をした。店名はCafé Cruで、飼っていた兎の名前である。



店の前に毎日新聞神戸支局があり、記者がお客さんで来ていた。それがきっかけで毎日新聞神戸版のfメールに寄稿している。女性だけでローテーションを組んで寄稿しており、2015年1月から、年に4〜5本書いている。内容については特に制限はなく自由に書いている。金田さんのテーマはお菓子の他、店を通じて色んな人と接する機会が多いので、出会った人から感じた事を書こうと思っている。フェアトレードの会社を立ち上げた人、映画との関わりを教えてくれた人、r3のオーナーなどについて書かせてもらっている。最新の寄稿はr3で知り合った、福島県から避難されてきた来た方で、その方との関わりを通して自分は何をすることが出来るかを考えた。食事を一緒にした時に、その方が神戸に来てよかった事

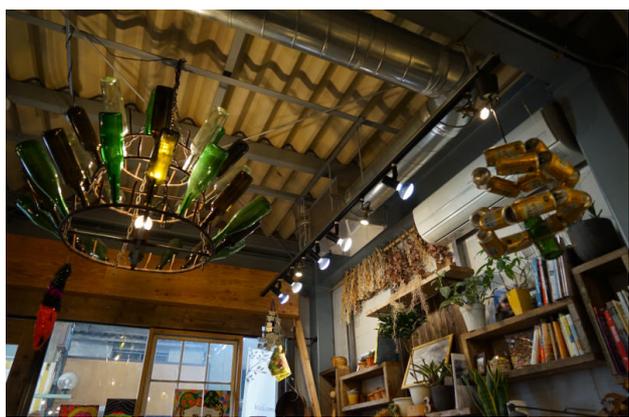
は、子どもを連れて外食を楽しめるようになったことと話された。当たり前なことなのにとはい、自分が出来ることはといえば、安心出来る材料を提供することと思った。

2. ミュージック：光と時の彼方（アーティスト：小谷野謙一） WMIB000099

3. ゲストコーナー（2）

r3のオーナー合田さんは、兵庫区に生まれ須磨ニュータウンに住み、結婚し長男を妊娠中の時にご主人の実家に住んでいた。転居しようと思いい家を探していた時に紹介してもらい、長田に住むようになった。レンタルスペースを始めようと思ったのは、長田に住んで12年になるが、4人の子どもが出来、長男が生まれた時は専業主婦で、商店街をベビーカーを押して通ると、近所の人から話しかけられ、12年のうちに街に知らない人がいなくなった。関わる人の料理やものづくり能力が凄く高く、そのような人のスキルを生かせないかと考え、皆で集まり夢をかなえる場所を作りたいと思ったことがきっかけで出来たものである。合田さんは街で出会った人の事を、建築士のご主人と毎日のように話していた。

r3は元は鉄板焼き屋と牛乳屋があった場所を、建築士のご主人が改造したもので、備品等を含め廃材を活用している。昔の物は価値あると考えるご主人で、小学校のPTA会長したことがきっかけで、子どもたちが手作りの工作を持参した時、全てキット化されていることに驚き、将来の子ども達のものづくりに危機感を持ち、本物を使ったもので店を作りたいと強く思った。



r3は全てがレンタルスペースで、午前中は小さい子どもを抱えたお母さんの歌や音楽の時間、11時～15時はカフェオーナーが日替わりで出店、15時～18時は寺小屋で、ミュージカル、体操、塾、ダンス、ヒップホップ、夜は月2回ほどバルを開催している。ピアノは先生が実家から持ってきたもの、備品はまず買わず、食器なども廃業した店舗から譲りうけたものである。鉄板がおかれているのはr3の前の店舗の方が、将来鉄板焼き屋をしたいと言ったので設置した。金田さんがカフェを出店（週1回）したのは、合田さんとは昔からの友人でもあり、元町店とは雰囲気の違い、気分転換が出来ればと思ったからである。

r3のキーワードは「赤ちゃん」である。長田12年間の体験から、赤ちゃんは何もしゃべらないのに、コミュニケーションをとる力は凄いと感じ、赤ちゃんが人と人を繋ぎ、長田の街を一つにしてくれるのではないかと思ったからである。

NPO法人ママの働き方応援隊（Mamahata）は、0～3歳児を抱えるお母さんが全国で1700名活動しており、日本の課題である孤独死、自殺、ひきこもり、いじめは人が繋がっていないことで起きているので、赤ちゃんの力で日本の無縁社会を解消しようとするものです（赤ちゃん先生プロジェクト）。赤ちゃんとお母さんが一緒に小・中学校に行き、赤ちゃん先生として命の授業をする。高校・大学では親になる準備として、出産、結婚を含めたキャリアデザインとして行っている。高齢者施設、そして婚活パーティでは共同作業の育児体験をしてもらうことで、知らない人同士を赤ちゃんが繋ぐことが出来るので、このようにした結果カップル成立が3倍になった。



このプロジェクトはお母さんが、社会に繋がるきっかけになっている。出産後引きこもらず、赤ちゃんと一緒に色んな所に出かけ、地域と繋がるので孤独から解放される。合田さんは出産後1ヶ月から赤ちゃんを連れてr3で仕事をしており、近所の人がよく赤ちゃんを抱いてくれる。3ヶ月で1000人以上の人に抱かれている。

あそびの先生は、NPOの事業から生まれたもので、元保育士さんが、わが子を預けて他の子を見ろという働き方に悲しい思いをしていたので、わが子も連れて行って他の子と一緒に見てやろうというもの。防災お菓子リュックという活動があり、これはお菓子でリュックを作り、防災の勉強を親子で行い、賞味期限の近付いたお菓子を食べる。

ママの働き方応援隊は色んな活動をしている。お母さんは子育てしながら地域に根差して生活しているので、防災のこと、託児のこと、待機児童のこと、ではなく、今何が出来るかという観点から、色んな事業モデルが誕生し提供している。小さな社会問題を自分達で解決しようという取り組みである。以上の取り組みは5年前に神戸で生まれたもので、北は仙台から南は奄美大島、沖縄まで活動が広がっている。

活動を始めた時、子どもも高齢者もみるため昭和を取り戻したかった。コミュニティのロールモデルをr3で作れたと思っている。この5年で全国に小さなコミュニティが出来た。赤ちゃんからお年寄り、障害者まで共同で生活できるようなコミュニティ「ビレッジ（村）」を、全国に広げていきたいと思っている。このような活動については「ママハタ」で検索することで活動を知ることが出来ます。

金田さんの抱負は、店を始めたころどういう風になりたいかと聞かれたら、このまま続けていきたいと答えていた。40代半ばになった今、最近は年齢に合わせてしなやかに働き方を変えていきたいと思う。何をするかを決める基準は楽しそうか、そうでないかである。r3は楽しそうだから始めた。

NPO 法人ママの働き方応援隊ウェブサイト <https://www.mamahata.net/>
NPO 法人ママの働き方応援隊 (facebook) <https://www.facebook.com/akachan.jp/>
なっちのライフワーク (合田三奈子さんのブログ) <https://godaminako.wordpress.com/>

4. こぼれた話こぼれなかった話：神戸ルミナリエの表裏情報

阪神・淡路大震災の多くの犠牲者の鎮魂と追悼、被災者への激励、街の復興のために「神戸ルミナリエ」は、神戸市内の旧居留地の仲町通、東遊園地をメイン会場として、同年から毎年12月に開催され、昨年では約350万人が来場しました。

今年第22回は、テーマが「光の抒情詩」、イタリアの職人さんとデザインでLED電球30万個を使った作品で、12月2日（金）から11日（日）の10日間開催されます。

● テーマと来場者数（年度別）

①来場者は、最高で538万人（2004年）でしたが、開催日を短縮・前倒しして、最近では350万人ほどになってます。これは、クリスマス期日開催による会場整理の事故懸念（特に、明石の歩道橋圧死事件以来）と近隣商業施設の歳末商戦への配慮から、以前より早期に消灯してしまっています。（2005年まではクリスマス日も点灯していた）

②来場者のカウントは、人数を数えていません。通りを通過する人々の1㎡あたりの密度と歩く速度、道幅、時間帯などをパラメーターに、経験則と実証による計算式でやっています。

● 多くの篤志、助成金で開催継続、表と裏のお話

「神戸ルミナリエ」は、当初から多くの市民・企業からの篤志、関係機関・行政からの助成金、飲食店収入、オフィシャルグッズに、前年度からの繰越金を財源として、製作・設営・警備等運営など約4.68億円（2015年度）がまかなわれています。

（※ ちなみに、収入は、企業協賛金が42%、補助金が28%、募金が15%、飲食店から10%。支出では、作品25%、会場設営8%、警備28%、電気代など運営費16%、飲食店対策9%、広報事務費14%です。）

①資金確保のために入場料として1人100円を必ず募金して貰うという案は開催当初からあったし、イタリアのルミナリエをもっと安価に製作できる単なるクリスマス電飾イベントにしなかったのも、震災犠牲者の鎮魂の目的のためにと採択されませんでした。

②開催初期は、作品代がバラボーに高かった。今の約2倍。毎年、値切り交渉の結果、下がってきました。そのかわり、警備費が急増し、現在は初期の1.5倍。明石の歩道橋圧死事件の後、県警からの強い申し入れで、仕方ありませんでした。

③初期2年間は、屋台を止めていたのですが、3年目に業者側からの強行出店で混乱し、4年目からは開催側のコントロールで続けられました。最近も、業者まかせではなく、公募抽選で出店を決めています。震災間もなくでしたので、近隣の商業施設は夜7時閉店で8時にはみな閉まっていた。9時過ぎまで来場者が多いのに、食べる場所もないとして、困ってましたが、復興への意気込みとして、無理ながら長時間営業を頼み込みました。(これも屋台進出の背景だった)

● 開催継続を望む

忘れてはならない阪神淡路大震災の体験の継承、400万人もの来場者をいかに地元の経済活性化につなげるか等々、開催に伴う種々の問題点は多いが、関係者一同、市民、観光客が「神戸ルミナリエ」の継続開催に向けて、理解・協力をいただけるよう、元実行委員会委員であったことから、切に望みたい。

5. 地域瓦版

11月27日(日)13時30分から、第4回INA2011ワンマンライブがライブハウス神戸108で開催されます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukarihyogo.jp/>